

9:00	【学術分科会開会式】 開会の辞 北方圏国際シンポジウム実行委員会 実行委員長 高橋 修平 (流水科学センター) 青田昌秋賞の説明 片倉 靖次 (紋別市) 【K:基調講演】 K-1 海洋科学に関する国際共同研究の進め方ー極東およびアジアからの貢献のあり方ー 道田 豊 (東大大気海洋研) 【S:特別講演】 S-1 新しい北極海の状態における海氷変動 ○島田 浩二, 吉澤 枝里 (海洋大院) S-2 果たせなかった北極海航海ー快鳳丸の昭和16年北極海横断航海計画ー ○高橋 修平 (流水科学センター), 永延 幹男 (水研セ国水資研)	司会: 片倉 靖次 (紋別市) 座長: 三寺 史夫 (北大低温研)
10:40	休憩	
10:50	【A:リモートセンシングと気候変動】 A-1 Coastal remote sensing from unmanned ground vehicles ☆A ◇Denis Zeziulin, Andrey Kurkin, Efim Pelinovsky, Dmitry Tyugin, Ayrat Giniyatullin, Oxana Kurkina, Vladimir Belyakov, Alexander Belyaev and Vladimir Makarov (Nizhny Novgorod State Tech. Univ., Russia) A-2 An algorithm for analysis of pack ice concentration using image processing technique ◇Seok-Ho Byun, Jong-Ho Nam, Jong-Hun Woo and Seung-Jae Lee (Korea Mar. Ocean Univ., Korea) A-3 気象衛星 NOAA 画像による海氷観測への応用利用 ○小松 正明, 中出 雄大, 清水 亮介 (釧路工高専) A-4 渦熱フラックスの変調からみた北極気候変動 浮田 甚郎 (新潟大), ○岩本 勉之 (極地研/新潟大/紋別市)	座長: 高木 敏幸 (釧路工高専)
12:10	昼食	
13:30 ↓ 15:00	【市民公開講座:氷海の民シンポジウム】 シマフクロウの森を守る 山本 純郎 (環境省シマフクロウ保護増殖検討会)	◆道民カレッジ連携講座
15:00	休憩	
15:10	【B:雪氷と暮らし】 B-1 北海道における近年の大雪・暴風雪と国道通行止めの関係について ☆A ○大宮 哲, 原田 裕介, 武知 洋太, 松澤 勝 (寒地土研) B-2 積雪寒冷地住民の共助で発揮される体力 ○須田 力 (雪氷ネットワーク), 小西 信義 (北海道開発技術センター), 森田 勲 (北海道医療大), 水野 眞佐夫 (北大) B-3 寒冷地災害PBLー留学生支援アプリ開発ー ○新本 健仁 (宇都宮大工), 原 維吹 (宇都宮大農), 池田 雅一, 宮本 直樹, 原 紳 (宇都宮大工), 堀尾 佳以 (宇都宮大院工)	座長: 松村 寛一郎 (東京農大)
16:10	休憩	
16:20	B-4 Virtual reality 技術による南極におけるブリザード時視程の視覚的再現 ○菅原 幸夫 (北見工大), 高橋 修平 (流水科学センター), 藤田 悠輔 (北見工大工) B-5 摘み取り指の弾性を活かした切断後把持戦略 ○原 紳, 渡邊 信一 (宇都宮大工), 横田 和隆 (宇都宮大院工) B-6 北海道における畑作4品目の作柄指標予測 ○松村 寛一郎 (東農大), 井上 聡 (北海道農業研究センター), 杉本 賢二 (名古屋大)	
18:30	ホワイトコンサート 『オホーツク流水科学センター』	

10:00	【W:ワークショップ:油汚染】 司会：伊藤 正人 (オホーツク環境ネット OEPN) テーマ：万が一の大規模油汚染に、どう対応するか
10:05	W-1 サハリンIIプロジェクトの最新情報について 通訳：藤井 雅代 Larisa Yamamoto (サハリンエナジー社)
10:30	W-2 日本が経験した大規模油汚染事故事例 佐々木 邦昭 (油濁コンサルティング)
11:20	W-3 海洋汚染の実態と刑事判例 大貫 伸 (日本海難防止協会)
11:45	W-4 情報提供「災害に備えよう」 小野 哲 (オホーツク環境ネット OEPN)
12:00	昼 食
	【C:日韓合同セッション】 座長：北川 弘光 (海洋政策研究所)
13:00	C-1 北極航路航行支援システムの研究 山口 一 (東大院新領域)
13:30	C-2 Overview of the development of safe voyage planning system for Arctic sea route ◇Kuk-Jin Kang, Seong-Yeob Jeong, Seong-Rak Cho, Jong-Gil Yeom, Jeong-Seok Ha and Eun-Jin Oh (KRISO, Korea)
14:00	C-3 北極海航路による貨物輸送シナリオの検討 ○大塚 夏彦 (北日本港湾コンサルタント), 今井 克哉, 永川 圭介 (東大院新領域), 古市 正彦 (京都大)
14:20	C-4 Prototype development of safe voyage planning system for vessel operating in Arctic sea route ◇Han Jin Lee, Eun-Chan Kim and Kuk-Jin Kang (KRISO, Korea)
14:40	休 憩
	座長：Kuk-Jin Kang (KRISO, Korea)
14:50	C-5 極海コードについて ○酒井 英二, 北川 弘光 (海洋政策研究所)
15:10	C-6 Introduction of voyage environmental information system (VEIS) for the northern sea route ◇Chan-Su Yang, Kyeong-Ok Kim, Sun-Hwa Kim, Hak-Soo Im, Cheol-Ho Kim, Min-Woo Kim and Dan-Bee Hong (Korea Inst. Ocean Sci. Tech., Korea)
15:30	C-7 衛星マイクロ波放射計AMSR-E/AMSR2 を用いた北極海の海氷厚推定手法の評価と改良 ○館山 一孝, 徳留 泰行, 田中 康弘 (北見工大), 小野 純 (JAMSTEC), 木村 詞明 (東大院新領域), 高木 敏幸 (釧路工高専)
15:50	C-8 Arctic sea ship path planning based on multi-resolution ocean environmental information ◇Seungkyun Yeo and Hyun Chung (Korea Advanced Inst. Sci. Tech., Korea)
16:10	休 憩
	座長：木村 詞明 (極地研/東大院新領域)
16:20	C-9 An investigation of the extension of an ice-resistance system for a various pack ice condition ◇Hyun Soo Kim (Inha Tech. College, Korea), Dong-Hyun Ahn, SuHeon Ju (Seoul Ntl. Univ., Korea), Kuk-Jin Kang and Seong-Yeob Jeong (KRISO, Korea)
16:40	C-10 アイスクラス船の出力推定のための氷海水槽試験 ○松沢 孝俊, 下田 春人, 若生 大輔, 宇都 正太郎 (海技研), 何 青 (大島造船所), 渡邊 心平 (日本海事協会)
17:00	C-11 Prediction of resistance and propulsion performance for the optimization of Arctic sea routes Eun-Chan Kim and ◇Kuk-Jin Kang (KRISO, Korea)
17:20	C-12 An analysis of ice load characteristics on a model ship hull ◇Eun-Jee Cheon, Kyungsik Choi (Korea Mar. Ocean Univ., Korea) and Seong-Yeob Jeong (KRISO, Korea)
17:40	C-13 流氷中に位置保持する掘削船に加わる氷荷重分布の模型実験結果 ○泉山 耕 (北日本港湾コンサルタント), 宇都 正太郎, 大坪 和久, 松沢 孝俊, 下田 春人, 若生 大輔 (海技研), 浅沼 貴之, 山本 譲司 (石油天然ガス・金属鉱物資源機構)
18:30	ホワイトコンサート 『オホーツク流水科学センター』

2016年2月22日(月)

紋別市文化会館

あざらし会場(3階サークル室)

9:00	
12:00	昼食
13:30	<p>【市民公開講座:オホーツク～ふるさとの海】 ◆道民カレッジ連携講座</p> <p>趣旨説明</p> <p>13:40 Ⅰ. オホーツク海のサケ大漁と前線蛇行 横内 克巳 (水研セ北水研)</p> <p>14:20 Ⅱ. 映像で見る海中変化 大橋 勇太 (海洋探査)</p> <p>15:00 Ⅲ. 光センサーでホッケの脂の乗りをみる! 宮崎 亜希子 (道総研網走水試)</p> <p>附録 ホタテガイの消流、今昔 山田 雅也 (北海道文化財保護協会/紋別市)</p>
16:00	休憩

2016年2月22日(月)

紋別市民会館

2階会議室

9:00	
12:00	昼食
13:30	<p>【市民公開講座:オホーツク・テロワール シンポジウム2016 in 紋別】 ◆道民カレッジ連携講座</p> <p>テーマ:ーもっと、オホーツクー</p> <p>・主催者挨拶 川筋 守 (オホーツク・テロワール代表)</p> <p>13:40 ・オホーツク・テロワールフォーラム 基調講演: 地方創生の現状と課題について 村上 敬亮 (内閣府まち・ひと・しごと創生本部事務局/内閣府地方創生推進室)</p> <p>14:50 ・オホーツク・テロワール活動報告</p> <p>15:10 ・全体討議:「広域観光組織(D・M・O)」について 進行: 小林 国之 (北海道大学大学院農学研究院/オホーツク・テロワール理事)</p> <p>17:20 ・農商工連携支援事業活動報告 報告者 荻原 敏</p> <p>17:50 閉会</p>
18:30	ホワイトコンサート 『オホーツク流水科学センター』

9:00	
	◆11:30~12:30 ポスター発表「文化会館3階ロビー」
12:30	昼食
	【市民公開講座:オホーツク地域の暴風雪を考える】 ◆道民カレッジ連携講座 13:30 開会挨拶 網走地方道路防災連絡協議会会長 山梨 高裕 (網走開発建設部) 13:35 I. 豪雪地で生きるために必要な体力 須田 力 (NPO 法人雪氷ネットワーク) 14:05 II. 北海道における近年の大雪・暴風雪と国道通行止めの関係 大宮 哲 (寒地土木研究所) 14:20 III. 紋別協働型道路マネジメントによるふぶき待避所の取り組み 田中 夕貴 (紋別協働型道路マネジメント) 14:35 IV. 降雪時の車内でのCO中毒危険性 松井 竜太 ((株)JAF MATE 社) 14:50 休憩 15:00 総合討論 ファシリテーター 根本 昌宏 (北海道看護大学) 15:30 閉会
15:30	休憩
	【D:海氷と工学】 座長: 館山 一孝 (北見工大) 15:40 D-1 オホーツクタワー周辺における浅海域水中音響通信試験 ○吉澤 真吾, 谷本 洋 (北見工大), 齋藤 隆 (三菱電機特機システム) 16:00 D-2 Spectroellipsometric tools for the water quality diagnostics in the Sea of Okhotsk Vladimir F. Krapivin and ◇Ferdinant A. Mkrtychyan (V. A. Kotelnikov Inst. Radioeng. & Electronics, Russia) 16:20 D-3 構造物との衝突時における氷板破壊過程の粒子ベース数値モデルの構築 ☆A ○阿部 孝章 (寒地土研), 吉川 泰弘 (北見工大)
16:40	休憩
	座長: 金野 祥久 (工学院大) 16:50 D-4 南極海における AMSR2 センサを用いた海氷厚推定アルゴリズムの開発とその検証 ☆A ○星野 聖太 (北見工大院), 館山 一孝 (北見工大), 牛尾 収輝, 田村 岳史 (極地研) 17:10 D-5 A case study of performance test for Anti-icing deck equipment in arctic marine plant and polar class vessel ◇Su yeon Oh, Il-sup Shin, Huigyeong Lee, Donghyun Kim and Seonghwan Min (Korea Mar. Equipment Res. Inst., Korea) 17:30 D-6 Development of GIMS- technologies for environmental monitoring of ocean ecosystems Vladimir F. Krapivin, ◇Ferdinant A. Mkrtychyan (V. A. Kotelnikov Inst. Radioeng. & Electronics, Russia) and Nazaret A. Nazaryan (GIMS- Ltd., Russia)
19:00	交歓の夕べ 『紋別セントラルホテル』

☆A 青田昌秋賞候補講演

	<p>【E:氷海の気象と海洋】 座長: 岩本 勉之 (極地研/新潟大/紋別市)</p> <p>9:00 E-1 海底境界層に着目した夏季の宗谷暖流のジェット構造について ☆A ○唐木 達郎 (北大院環境), 三寺 史夫 (北大低温研), 黒田 寛 (水研セ北水研)</p> <p>9:20 E-2 サハリン北東沿岸沖におけるフラジルアイスの生成および堆積物粒子の上方輸送の観測 ☆A ○伊藤 優人 (北大院環境), 大島 慶一郎, 西岡 純 (北大低温研), 楠本 仁麦 (ハイドロシステム開発), 水田 元太 (北大院環境), 深町 康 (北大低温研)</p> <p>9:40 E-3 北極海の高気圧性渦内で観測された高エネルギー散逸過程について -内部慣性重力波の碎波- ☆A ○川口 悠介, 西野 茂人 (JAMSTEC), 猪上 淳 (極地研), 竹田 大樹 (東京学芸大/JAMSTEC), 前野 克久 (グローバルオーシャンデベロップメント/JAMSTEC), 大島 和裕 (JAMSTEC)</p>
10:00	休憩
	<p>座長: 佐川 玄輝 (ウェザーニューズ)</p> <p>10:10 E-4 北極域の海氷域減少が成層圏対流圏結合系に及ぼす影響 ☆A ○星 一平, 浮田 甚郎, 本田 明治 (新潟大), 岩本 勉之 (極地研/新潟大/紋別市), 中村 哲, 山崎 孝治 (極地研/北大)</p> <p>10:30 E-5 北極海における海氷の積み重なりによる力学的な海氷厚成長の推定 ☆A ○吉澤 枝里, 島田 浩二 (海洋大院)</p> <p>10:50 E-6 海洋混合層内の乱流混合に関する研究 -北極航海 MR14-05 の高頻度乱流観測- ☆A ○竹田 大樹 (東京学芸大/JAMSTEC), 川口 悠介 (JAMSTEC), 佐藤 尚毅 (東京学芸大/JAMSTEC)</p> <p>----- ◆11:30~12:30 ポスター発表「文化会館3階ロビー」</p>
12:30	昼食
13:30	<p>【F:特別セッション、北極航路をめぐる研究の進展】</p> <p>◆次項掲載</p>
19:00	交歓の夕べ 『紋別セントラルホテル』

☆A 青田昌秋賞候補講演

9:00	【E:氷海の気象と海洋】 ◆前項掲載 ◆11:30~12:30 ポスター発表「文化会館3階ロビー」
12:30	昼食
13:30	【F:特別セッション, 北極航路をめぐる研究の進展】 座長: 山口 一 (東大新領域) F-1 北極海航路の概況と内外船主の取り組み 合田 浩之 (日本郵船) F-2 衛星AISによる北極海航路における航行実態の継続的把握への試み ○安部 智久 (国総研), 清水 収司 (JAXA), 早川 哲也 (北海道開発局), 平山 千代和 (青森県), 高橋 宏直 (みなと総合研究財団), 木下 真吾 (国総研) F-3 砕氷 LNG タンカーによる北極海航路 LNG 輸送の可能性 大塚 夏彦, 泉山 耕 (北日本港湾コンサルタント), 永川 圭介, ☆A ○今井 克哉 (東大新領域) F-4 Simplified random ice force modeling for ice-going ships navigating in pack ice based on collision test between model ship and synthetic ice ☆A ◇Hyoil Kim, 澤村 淳司 (阪大院工)
14:50	休憩
15:00	座長: 泉山 耕 (北日本港湾コンサルタント) F-5 小氷盤群中を航行する船舶の抵抗に及ぼす海氷の漂流速度影響 ○宇都 正太郎, 下田 春人, 若生 大輔, 松沢 孝俊 (海技研) F-6 Ice resistance test using synthetic ice for ship advancing into ice-covered water ☆A ○菅 敬介, 澤村 淳司, Hyoil Kim (阪大院工) F-7 省エネデバイスと氷塊との接触によるアイスクラス船の構造応答 ☆A ○松井 貞興, 山田 安平, 宇都 正太郎, 松沢 孝俊 (海技研), 渡邊 心平 (日本海事協会) F-8 船舶と単独氷塊との衝突に関する安全性評価手法の検討 ○鳴原 達也 (工学院大院), 金野 祥久 (工学院大)
16:20	休憩
16:30	座長: 宇都 正太郎 (海技研) F-9 Numerical simulation of local ice pressure distributions and structural response of ship hull for ship advancing in level ice 澤村 淳司 (阪大院工) F-10 レーダ画像を用いた砕氷船の能力に応じた氷海航路探索 ○高木 敏幸 (釧路工高専), 舘山 一孝 (北見工大) F-11 海水しぶき計を用いた海水飛沫の野外観測ー砕氷船そうやにおける観測例ー ○尾関 俊浩, 八代 裕平 (札教大), 佐川 玄輝 (ウェザーニューズ), 舘山 一孝 (北見工大), 豊田 威信 (北大低温研) F-12 北極海氷の中期予測手法の改良 ○木村 詞明 (極地研), 山口 一 (東大新領域)
19:00	交歓の夕べ 『紋別セントラルホテル』

☆A 青田昌秋賞候補講演

9:00	
11:30 12:30 12:30	<p>【P:ポスターセッション 1】</p> <p>P-1 オホーツク地域の観光スポット紹介アプリ開発 石川 亜実, 石関 隼人, 稲村 昇希, 岡 航平, 桑原 太, 住田 樹祐, 鶴田 佳樹, 永富 浩平, 菱岡 七海, 星野 成貴, 山崎 泰之, 渡辺 聖良, 松村 寛一郎 (東農大)</p> <p>P-2 2015年の北海道における畑作4品目作柄指標 飯田 壮樹, 石井 映吉, 石井 仁心, 大川 溪, 加古 和貴, 加藤 広大, 佐藤 勝仁, 庄司 峻, 杉浦 一輝, 武田 涼太, 望月 友貴, 吉川 諒, 寺島 佳枝, 青谷 海, 松村 寛一郎 (東農大)</p> <p>P-3 オホーツク海上に発生する Polar Low の気候学への取り組み ○柳瀬 亘, 新野 宏 (東大大気海洋研)</p> <p>P-4 南極昭和基地のエネルギーシステムの計画 ○濱中 瞭, 小原 伸哉, 金井 拓哉 (北見工大), 大内 泰輝 (北海道電力), 石沢 賢二 (極地研)</p> <p>P-5 流氷を伴う津波遡上による被害想定の研究概要 ○木岡 信治 (寒地土研), 竹内 貴弘 (八戸工業大), 渡部 靖憲 (北大)</p> <p>P-6 北極海の海氷変動と日本の降雪との関係 ○岩本 勉之 (紋別市/極地研/新潟大), 本田 明治, 浮田 甚郎 (新潟大学)</p> <p>P-7 日本海から太平洋へのスケトウダラ加入についての考察 ○濱津 友紀, 船本 鉄一郎, 山下 夕帆 (水研セ北水研)</p> <p>P-8 安定同位体比分析を用いた知床半島の河畔林における海由来栄養塩の輸送状況 ○小田 健太, 駒井 克昭, 松本 経 (北見工大), 中山 恵介 (神戸大), 渡辺 謙太, 桑江 朝比呂 (港空研)</p> <p>P-9 夏季の南極海の中規模渦における植物プランクトンの変動 ○佐々木 洋, 末永 恵奈 (石巻専修大), 真壁 竜介 (極地研), 服部 寛 (東海大)</p> <p>P-10 南極海の流氷内における動物群集の組成 ○小島 本葉 (総研大), 高橋 邦夫 (総研大/極地研), 宮崎 奈穂, 茂木 正人 (東京海洋大), 飯田 高大 (北大低温研), 谷村 篤, 小達 恒夫 (総研大/極地研)</p> <p>P-11 南大洋東経110度ラインにおける動物プランクトン群集変動解析 ○高橋 邦夫, 谷村 篤 (極地研/総研大), 福地 光男 (極地研), 小達 恒夫 (極地研/総研大)</p>
	<p>【JOGMEC 氷海事業の紹介】2月22日(月)~24日(水)</p> <p>「氷海開発を支援するための高精度氷況観測技術の開発について」</p> <p>出展:石油・天然ガス・金属鉱物資源機構、海上技術安全研究所</p>
19:00	交歓の夕べ 『紋別セントラルホテル』

	【S:特別講演】	座長：田口 哲 (東大大気海洋研)
9:00	S-3 ベーリング海における鮮新世-更新世の古海洋環境復元の成果 高橋 孝三 (北星学園大学)	
	【G:氷海の生物と水産】	
9:30	G-1 紋別周辺沿岸域の海洋環境における海水分布の変化の影響:オホーツクタワーモニタリング調査からの結果 ○葛西 広海 (水研セ北水研), 館山 一孝 (北見工大), 永田 隆一, 村井 克詞 (オホーツク・ガリニコタワー), 片倉 靖次, 濱岡 荘司 (紋別市)	
9:50	G-2 夏季オホーツク海南西域の異なる水塊における植物プランクトン群集の比較 ☆A ○渡辺 剛 (水研セ東北水研), 葛西 広海, 谷内 由貴子 (水研セ北水研), 黒田 寛, 桑田 晃 (水研セ東北水研)	
10:10	休憩	
		座長：佐々木 洋 (石巻専修大学)
10:20	G-3 親潮域春季ブルーム期におけるオキアミ類 (<i>Euphausia pacifica</i> および <i>Thysanoessa inspinata</i>) の胃内容物解析 ☆A ○阿部 義之 (北大院水産), 中川 至純 (東農大生物産業), 山口 篤, 今井 一郎 (北大院水産)	
10:40	G-4 2007および2008年夏季のベーリング海とチャクチ海におけるズワイガニ (<i>Chionoecetes opilio</i>) 浮遊幼生の動態 ☆A ◇Jose M. Landeira (北大院水産), 松野 孝平 (極地研), 山口 篤, 平澤 享 (北大院水産), 菊地 隆 (JAMSTEC)	
11:00	G-5 北極海における有殻翼足類の脆弱性:天然海水を用いた船上飼育実験の結果 ○木元 克典, 小野寺 丈尚太郎 (JAMSTEC), 池上 隆仁 (海生研), 松野 孝平 (極地研), 佐々木 理 (東北大総合学術博物館), 原田 尚美 (JAMSTEC)	
	◆11:30~12:30 ポスター発表「文化会館3階ロビー」	
12:30	昼食	
		座長：松本 経 (北見工大)
13:30	G-6 オホーツクタワー周辺海域における <i>Clione limacine</i> および <i>Limacina helicina</i> の出現時期と出現量 ○片倉 靖次, 濱岡 荘司 (紋別市)	
13:50	G-7 北海道オホーツク海のサケの資源状況 宮腰 靖之 (道さけます内水試)	
14:10	G-8 炭酸ガスは魚に麻酔効果を示す ○松原 創, 高田 彩, 高橋 潤 (東農大), 近藤 昌和 (水大校), 永見 新, 中 裕次郎, 舛田 稜平, 浅井 健太, 角田 健太, 志賀 喜典, 渡邊 研一 (東農大)	
14:30	休憩	
		座長：松原 創 (東京農大)
14:40	G-9 カワヤツメ寄生機構の解明 ☆A ○高田 彩, 松原 創 (東農大)	
15:00	G-10 北海道における陸上動物のサケ資源輸送パターン ○松本 経 (北見工大), 中山 恵介 (神戸大), 駒井 克昭, 久松 茂 (北見工大), 高橋 修平 (流水科学センター), 渡辺 謙太, 桑江 朝比呂 (港空研)	
15:20	G-11 国際市場におけるサケ生産国の多様性の維持と日本独自のサケ製品 清水 幾太郎 (水研セ北水研)	
15:40	休憩	
	【オホーツクタワー・とっかりセンター研究発表】	座長：廣崎 芳次 (野生水族繁殖センター)
15:50	G-12 オホーツクタワー周辺の海水の濁りの変動 ○宅間 みづほ, 須藤 慶次郎 (オホーツク・ガリニコタワー), 廣崎 芳次 (野生水族繁殖センター), 村井 克詞 (オホーツク・ガリニコタワー)	
16:10	G-13 簡易陸上移動用具使用時のゴマフアザラシ <i>Phoca lorgha</i> の行動と馴致調教 ○大場 亜矢子, 今井 恵, 土田 真彩 (アザラシ シーパラダイス), 廣崎 芳次 (野生水族繁殖センター)	
16:30	G-14 クラカケアザラシ <i>Phoca fasciata</i> 3個体の飼育内容から見た健康管理上の問題点 ○岡崎 雅子, 中澤 蒼, 本間 ひかる (とっかりセンター), 廣崎 芳次 (野生水族繁殖センター)	
19:00	交歓のタベ 『紋別セントラルホテル』	

☆A 青田昌秋賞候補講演

	【H:海氷と気象】	座長:大塚 夏彦 (北日本港湾コンサルタント)
9:00	H-1 Data assimilation in an ice-ocean coupled model to improve sea ice predictions in the Arctic Ocean ◇Dulini Yasara Mudunkotuwa, 山口 一 (東大院新領域)	
9:20	H-2 北海道における2月の気温の低極の消失と海氷の関係について 西村 三治 (釧路地方気象台)	
9:40	H-3 沿岸親潮流量と流れ場の構造の時間変動 ○日下 彰, 清水 勇吾 (水研セ中央水研), 佐藤 充 (道総研釧路水試), 吉田 次郎 (東京海洋大)	
10:00	休 憩	
10:10	H-4 Influence of topographic interaction and numerical diffusion on the Arctic Ocean freshwater modeling Liyanarachchi Waruna Arampath De Silva (極地研/東大新領域), ○山口 一 (東大院新領域)	
10:30	H-5 Operational aspects of sea ice research for the purpose of hydrocarbon fields development offshore Sakhalin Anatoliy M. Polomoshnov (LCC “RN-Shelf-Arctic”, Russia)	
11:00 11:30	【学術分科会閉会式】 ・講 評 ・青田昌秋賞授賞式 ・閉会の辞 北方圏国際シンポジウム実行委員会 実行委員長 高橋 修平	司会:片倉 靖次 (紋別市)
12:00	昼 食	
14:00 16:00	【市民公開講座:森から海の連環を考えるシンポジウム】 Ⅰ. 「きこりと子育て」で林業を未来へ! 原田 さやか Ⅱ. 地に足つける～東京センサーズでの日々 飯塚 潤子	◆道民カレッジ連携講座

13:00 16:00	【教育シンポジウム～社会教育施設の部】 ◆道民カレッジ連携講座 私たちが創る地域の魅力 コーディネーター: 桑原 尚司 (オホーツク流水科学センター) 第1部 「発表」 I. 見方を変える地域の力と社会教育～マイナスのプラス転換による観光創造をテーマに 福山 貴史 (北海道大学観光学高等研究センター) II. 地域をみがく “まち育” のすすめ 加賀 千登世 (プランナー・コピーライター) 第2部 「パネルディスカッション」 ・福山 貴史 (北海道大学観光学高等研究センター) ・加賀 千登世 (プランナー・コピーライター) ・小林 功男 (紋別市立博物館) ・山本 隆博 (紋別市観光交流推進室) ・高橋 信好 ((一社) 紋別観光協会) 「紋別高校ビジネス科による課題発表」 紋別観光に対する取組 他 質疑応答
---------------------	---

9:30 11:30	【教育シンポジウム～小・中学生の部】 ◆道民カレッジ連携講座 小・中学生による総合的な学習の発表 「興部の環境について」興部町立興部小学校 ・及川 なつみ・大塚 真理子・角谷 咲季・加藤 青空・相馬 龍仁・高橋 聖哉・高橋 七海 ・滝川 奈保子・土田 捷翔・長谷川匠・平澤 走・松坂帆高・松田 杏美・宮崎 芭菜 ・森武 聖弥・山崎 美奈・山田 陽菜・山根 大典・和田 琉貴・丸 小雪 質疑応答 講評 加賀 千登世 (プランナー・コピーライター) 中学生による総合的な学習の発表 「地域を知り、地域に学ぶ」 紋別市立紋別中学校 1年6班 「国際理解」 紋別市立渚滑中学校 I. 世界の暮らし 金子 碧 2年 II. 世界が驚く日本の技術 船木 利生太 2年 III. 世界のスイーツについて 箕輪 美咲 2年 IV. ガーナについて 大石 かれん 1年 V. フランスについて 大平 侑汰 1年 質疑応答 講評 齊藤 房生 (紋別市教育委員会) 福山 貴史 (北海道大学観光学高等研究センター)
	昼 食
13:10 14:30	【子どもと親の流水シンポジウム】 ◆道民カレッジ連携講座 I. オホーツク海と流水のはなし 高橋 修平 (オホーツク流水科学センター) II. 光と水・氷の不思議な世界 滝川 洋二 (東海大学)

【P: ポスターセッション 2】

- P-12** General features of ichthyoplankton structure in Busse Lagoon (Aniva Bay, South Sakhalin)
Olga N. Moukhametova (Sakhalin Res. Inst. Mar. Fish. Oceanography, Russia)
- P-13** Localization of fishing fleet, Alaska Pollock'eggs distribution and rate of their development in dependence of temperature of water around eastern Sakhalin
Ilyas N. Moukhametov and
Olga N. Moukhametova (Sakhalin Res. Inst. Mar. Fish. Oceanography, Russia)
- P-14** The spatial distribution of *Lycodes pectoralis* (Perciformes: Zoarcidae) Okhotsk Sea
Oleg Z. Badaev (TINRO-Center, Russia)
- P-15** Offshore concrete structures in cold region
Sergei Leonovich (Belorussian Ntl. Tech. Univ., Russia) and Lev V. Kim (Far Eastern Federal Univ., Russia)
- P-16** An expert system for the Okhotsk Sea investigation
Vladimir F. Krapivin, Ferdenant A. Mkrtchyan and Vladimir Yu. Soldatov (V.A. Kotelnikov Inst. Radioeng. & Electronics, Russia)
- P-17** Oceanographic conditions in the northwestern part of the Sea of Japan in March 2015
Boris S. Dyakov (TINRO-Centre, Russia)
- P-18** The volumes of dense shelf water in the northern part of the Okhotsk Sea in April-May 1994-2015
Alexander L. Figurkin (TINRO-Center, Russia)
- P-19** Main trends interannual changes in dissolved oxygen and temperature intermediate water deep part of the Okhotsk Sea
Vladimir I. Matveev and Alexander L Figurkin (TINRO-Center, Russia)
- P-20** Research of dependence of a saury fishery from interannual variability of oceanological conditions in southern Kuril region on satellite data
Yury V. Novikov and Eugene V. Samko (TINRO-Center, Russia)